

## 想像力をフルに働かせて

新2, 3年生の皆さん、進級おめでとうございます。本日から令和8年度が始まります。今年度も、文武両道の精神で、授業や部活動・クラブ活動等に取り組み、充実した1年間にしていきたいと思います。皆さんの成長を楽しみにしています。

さて新年度がスタートしたばかりですが、皆さんに質問です。「優しさって何?」と聞かれたらどのように答えるのでしょうか。「思いやる気持ち」「困っているときに助けること」…、様々な答えがあると思います。高校野球の強豪校で、夏の甲子園で優勝経験もある仙台育英高校野球部の須江航 監督は「優しさは想像力」だとお考えになっています。野球部員に対しても、「相手が今、どのような状況にあり、何を考え、その結果として次に何を必要としているのかを想像する力こそが優しさである」と繰り返しお話されています。

仙台育英高校の野球部は、レギュラー選手、控え選手、マネージャーが、それぞれの立場で想像力を働かせることで、チーム全体が1つにまとまり、互いに向上することができるのだそうです。選手たちは、試合中にミスをした相手選手に対してもさりげない気配りを見せることがあります。それは彼らが日頃から「自分がもし、あの立場だったら」と想像する訓練を積んでいるからなのだと思います。

反面、この想像力が決定的に欠けているニュースなどを見かけることがあります。3月には臨時で集会を持ち、齋藤先生からお話もありましたが、学校内で生徒が別の生徒を暴行する様子を撮影した動画が SNS 上に投稿、拡散されるケースが日本各地で相次ぎました。また、この3月に開催された WBC に出場した日本代表選手を、誹謗中傷するような SNS 上の書き込みがあったということにも胸を痛めたばかりです。動画を投稿するとき、書き込みをするとき、「これを拡散された相手は、一生消えない傷を負うのではないか」「自分の家族や、未来の自分がこの言葉を見たらどう思うのか」と想像力を働かせていれば、起こりえなかったことなのだと感じます。本当に悲しいことです。

想像力には、2つの役割があると思います。1つは「これをしたら、相手が困るのではないか」と踏みとどまる「ブレーキ」の役割、もう1つは「これをしたら、相手が助かるのではないか、喜ぶのではないか」と手を差し伸べる「アクセル」の役割です。想像力は相手に対してだけでなく、自分自身に対しても働かせることができます。「これをすることは自分にとってマイナスだ」とブレーキをかけたり、「これをしたら自分にプラスになる、成長につながる」とアクセルを踏んだりするということです。アクセルとブレーキを上手に使いこなせることは、これからの自分自身の成長にもつながっていきます。この1年間、想像力をフルに働かせてくださいね。

これから始まる令和8年度前期も、5月に開催する体育祭、6月には3年生の修学旅行、そして学校総合体育大会…等などが続いていきます。私はその時々の皆さんの生き生きとした姿、全力で向き合う姿を想像しています。わくわくするようなこの1年間に思いを馳せ、令和8年度前期始業式の式辞とします。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣